

登録コード	L2430500	開講年度	2026				
担当教員	SPREADBURY ASH LEIGH			副担当			
授業科目	英語学特論						
英文授業名	Special Lecture on English Linguistics						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文212講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力				ヒトと認知の仕組と言語能力との関係を学問的に考察できるようになる		
	【2022年度以前加付対象】異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力				認知言語学の観点から多様な言語現象を分析し、英語と日本語の比較ができるようになる		
	【2022年度以前加付対象】領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力				心理学・認知科学の知見を考慮した上で言語現象を分析できるようになる		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
授業で学べる「テーマ」	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			認知言語学の基本的なアプローチ・方法論を理解できるようになる			
	多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	本科目では、語彙・文法に関連する様々な現象について学ぶことで、認知言語学の基本的な言語観を身につける。ことばは我々人間の認知のクセを映す鏡とも言えよう。ヒトはことばを話すためにどのような知識を持っていなければならないのか。その知識はどのように習得されるのか。言語知識と一般的な認知能力はどのように関係しているのか。身近な言語現象を取り上げながらこのような問いについて考えていく。						
授業計画	第1回：オリエンテーション：認知言語学とは？ 第2回：世界の捉え方 第3回：カテゴリーのあり方 第4回：そもそも「意味」とは？ 第5回：比喩：メタファー 第6回：比喩：メトニミー・シネクドキー 第7回：語の意味変化 第8回：多義語の意味記述 第9回：語から文へ 第10回：文法の立ち上がり・存在意義 第11回：小さな記号、大きな記号 第12回：文法マーカー・文法的カテゴリー 第13回：文法化 第14回：日英対照研究 第15回：学期末まとめ、授業アンケート						
成績評価の方法	1. 平常点（授業参加、コメントシート）：40% 2. 期末レポート：60%						
成績評価の基準	「やや上にある」： 授業内で示された「語彙」「文法」の現象について不足なく理解している。 「かなり上にある」： 授業内で示された「語彙」「文法」の現象について不足なく理解し、自ら関連する問題を発見することができる 「卓越している」： 授業内で示された「語彙」「文法」の現象について不足なく理解し、自ら関連する問題を発見した上で、授業内で提示された知識を応用することができる						
事前事後学習の内容	事前学習として次に扱う章を予習する。事後学習として授業で学んだ内容を整理し、レポートにつなげるように関連する問題を考える。						
履修上の注意							
質問、相談への対応	メール（spreadbury[アットマーク]shinshu-u.ac.jp）にて質問・相談を受け付けます。						
教科書	野村益寛（2014）『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房						
参考書	ジョン・R・テイラー（2017）『メンタル・コーパス：母語話者の頭野中には何があるのか』くろしお出版						